

平成28年度 第2回 地域公共交通会議議事録

日時：平成29年1月31日（火） 午後1時00分～午後1時45分

場所：有田市役所4階 市長応接会議室

（出席委員） 成川満、後藤孝行、森下孝一、大山茂（代理：山本）、田中 守、
中本満、橋中保、高垣太郎（代理：上平）、森下清司、西村芳通、
鹿嶋久義、雑賀宗博、

（欠席委員） 北村修、高瀬秀彰、田村政博、加藤智美

（出席事務局職員） 嶋田経営管理部部長、向後経営管理部理事、大松経営企画課長、
石井まちづくり係長、馬場まちづくり係主事

（議 事）

議案第3号 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

議案第4号 平成29年度事業計画（案）の承認について

議案第5号 平成29年度予算（案）の承認について

1. 開会（事務局）

ただいまより、平成28年度第2回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんの出席をいただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに成川会長よりご挨拶よろしくお願いいたします。

2. 会長挨拶

皆さん、どうもこんにちは。

本日は大変お忙しい中、地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議ご検討いただきまして、地域の公共交通として重要な役割を果たしているところです。

デマンドバスにつきましては、平成23年度から「地域公共交通確保維持改善事業」として運行を実施しているところですが、本日はこの国庫補助事業における自己評価につきまして、ご協議をお願いしたい次第でございます。また、今年度につきまして、あとわずかとなりましたので、平成29年度事業計画（案）及び予算（案）も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方などについて、活発にご協議していただきたいと思っております。委員の皆様には、どうぞよろしくご報告申し上げます。本日はご苦勞様でございます。

3. （事務局）

ありがとうございます。それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。成川議長よろしくご報告いたします。

4. 議事

（成川議長）

それでは早速ですが、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、議案3件でございます。それでは、議案第3号「地域公共交通確保維持

改善事業の事業評価について」を事務局より説明願います。

(事務局説明)

議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について」ですが、まず始めに「地域公共交通確保維持改善事業」についてご説明させていただきます。この事業は、多様な関係者の連携により、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を支援いただけるものです。有田市デマンドバスにつきましても、毎年、生活交通確保維持改善計画に基づきまして、運行に係る経費を対象に一定の補助を継続的に行っていただいております。平成29年度事業につきましても、前回の会議でご承認いただきました生活交通確保維持改善計画を平成28年12月7日付けで認定いただき、申請通りの補助額5,712千円の内定をいただいております。また、毎年度の補助事業終了後には、実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次年度の取組につなげていかなければならないとされています。まず、一次評価ということで、協議会自らが評価を行います。その評価結果を国に報告し、二次評価を受けるという流れになっています。事業年度は通常一般的な年度とは異なり、10月から9月になりますので、今回評価を行う平成28年度事業は、平成27年10月から平成28年9月までの分となります。以上の内容をうけて議案第3号の説明に移ります。

まず1頁目ですが、前回の評価結果の反映状況ということで表の③をご覧ください。前回の評価結果では、利用客数の減少がみられたため、市内各所および街頭啓発において時刻表を配布し、利用促進につながるよう努めた、としました。また、④の事業実施の適切性については、計画どおり適切に実施されたと考えておりますので、評価をAとしております。⑤の目標・効果達成状況ですが、まず、上段のAコースについては、公共交通空白地域を解消し、安定してサービスを提供するという目標を達成したほか、利用人員については、前年度比112%であったため、評価をAとしています。下段のBコースにつきましても、利用人員が前年度比99.8%とわずかに目標達成に至らなかったため、評価をBとしています。利用人員については、資料の4頁をご覧ください。平成27年10月から平成28年9月の乗車人数を載せております。また、下の方には、乗車人数の対前年度比率を載せております。1頁にお戻りください。⑥の今後の改善点としましては、上段Aコースにつきましても、利用促進や改正後のダイヤの定着化などにより利用者数に回復がみられたことから、今後も引き続きPRを行うとともに、利用者の安定的な確保に努めていくこととします。下段のBコースにつきましても、利用者数にわずかな減少がみられたため、引き続き利用促進を行っていくこととします。次に2頁をお開きください。ここでは、地域の交通の目指す姿ということで、本市の公共交通機関の現状及び交通弱者である高齢者数が増加傾向であることを踏まえ、事業実施の目的と必要性を記載しております。3頁をお開きください。取組・評価概要のわかるポンチ絵になっています。今までご説明してきたことをわかりやすくまとめたものです。目標に対する取り組み、それに対する評価、評価から得られた課題を記載するとともに、アピールポイントとして、高齢者運転免許証返納者への割引制度をPRするため、交通安全運動の街頭啓発において時刻表を配布したことを挙げております。議案第3号の説明は以上です。

(成川議長)

ただいま説明のありました議案につきまして、ご意見、ご質問をよろしくお願ひいたします。 利用者は増えているのですね。

(事務局)

そうですね。Aコースは対前年度比率110%、人数にすると約800名増えています。Bコースは15名の減少で、両コース合わせると微増という状況です。

(成川議長)

Bコースは減っているといえどもほぼ横ばいですね。Aコースはこれまでに比べると劇的に増えていますね。

(森下清司委員)

資料1頁の⑤目標の達成状況のところですが、Bコースは利用者数が対前年度99.8%で、わずかながら減っているということで、慎ましやかにB評価をされているのですが、100%にほぼ近いということで、これはA評価でもよいのではないのでしょうか。行政さんの他のところで事業計画、事業評価される場合、たとえば、80~90%あればA評価、80%を割ったらB評価にするといったような一定の基準などはあるのでしょうか。

(後藤委員)

基本、目標に達成しなかったらB評価というのが一般的な評価の方法ですが、そこはこのように地域公共交通会議の中で評価いただくわけですので、実際、今の評価されている通り、微減であってもB評価にするのか、もしくは人口減少の状況であってもおおむね達成できたのでA評価とするのかというところについては、この会議の協議事項ですので本会の中で決めていただくということになります。

(森下清司委員)

他のところを見ていると、おおむね達成できているところについてはA評価にしているところもあると思います。こういったかたちでたくさん乗られて、ほとんど99.8%であれば、A評価として、皆さん頑張っていたいている、自分達がこう思っていると出していくというのは良いと思いますが、みなさんのご意見はどうでしょうか。

(成川議長)

ありがとうございます。目標の設定というのが前年度の実績をベースに行っているということですね。もう少し高く目標を掲げてそこへ持っていく設定であるのか、実績を落とさないように頑張ろうという目標であるのか、目標の設定にもあると思いますが、考え方も色々あると思いますので。

(後藤委員)

さきほどおおむね達成できたということでA評価というような話もあるのですが、そこには前提として人口が減少していて、本来乗る方が少なくなっているという中でおおむね達成できたというような表現をしていただければもっと分かりやすいのかなと思います。

(成川議長)

人口減少しているのは確かですが、利用のターゲットである高齢者は逆に少し増えているかもしれません。その辺り詳細なデータはないので分からないのですが。

(後藤委員)

そこに、こういう利用促進活動をしていただいたので増えたということで。

(成川議長)

肯定的なご意見をいただいておりますが、事務局はどうでしょうか。

(事務局)

事務局の方では、前年度を上回った部分についてはA評価、前年度と比較して未達成の場合はB評価という単純な評価の仕方をしたわけですが、ご意見をいただく中で、目標設定をどこに置くのかというところでも評価のポイントが変わってくるのかなという風に考えています。今お話を聞かせていただいてその辺りも整理していく必要があると思いました。

(成川議長)

AコースとBコースで結果が分かれていますのですが、これはコースの変更とかそういったものはなかったですか。

(事務局)

27年度と28年度につきましてはコースの変更はないです。

(事務局)

事務局側からなのですが、Aコース829名増えている内631名が障がい者の方です。Aコースの大半、約75%を占めていますが、これはなにかアプローチなどをしたのでしょうか。

(成川議長)

結局PRをして浸透をしたということですかね。

(高垣委員代理)

Bコースというのはもともとこのデマンドバスを運行する前から従来路線バスとして運行していたところがほとんどでして、その路線もやはり利用者の方が少ないということで、最終的にこのデマンドバスというかたちになりました。今運行させてもらっているAコースというところは、もう20年以上前ですね、昔は走っていたらしいのですが、私が会社に入る時には走っていなかった、もともとが空白地帯のところを走ってみようということで、ゼロから始めたというようなところがほとんどです。こちらの資料にもありますように、私も利用者数の集計をしていますが、最近やはりAコースの方はご利用される方、リピートで使われる方がだいぶ増えてきています。決まった時間に決まった場所で決まったところまで、というのを継続的にご利用いただいているというのが多いのかなと思います。Bコースはもともと、具体的な地名を言いますと、矢櫃とかの方は昔からご利用いただいていたのですが、やはり人口減少というのが大きなところかと思えます。代わりに今まで走っていなかったところも運行しているかたちになります。数字の増減の要因というのはそのようなところかと思っています。

(森下孝一委員)

質問させていただきたいのですが、色々なPR活動と申しますか、利用促進のために色々な取り組みをされていると思いますが、具体的にどのようなPR活動をされたのか、ターゲットを絞ってなのか、Aコースも障がい者の方が増えているということですが、人数にするとお一人か二人ぐらいですかね。そうなるくなにか他の要因があって、使い易い、使える状態だったのか、こういうのを知って初めて使われたのかというところぐらいなのかなと。これは事業者さん、運転手さんが一番よくご存知かもしれません。普段同じような方、顔見知りの方とかというのものもあるでしょうし。要は新たな利用者へのアプローチの仕方というのはどんなことをされているのかを教えていただきたいです。

(事務局)

デマンドバスのPRにつきましては毎年全戸世帯を対象に時刻表を新聞折込で配布しています。その中で病院さんなどはそれを掲示していただいていたりは見受けられます。それプラス、今年度につきましては春の交通安全運動ということで、市の方でも市内の3カ所のスーパーマーケットで啓発グッズを配布しています。今年は子どもと高齢者の事故防止という項目を実施計画の中で掲げられていました。デマンドバスにつきましても、運転免許返納証明書保持者の運賃の割引というのも行っておりますし、そういった交通弱者をターゲットとしているということもございますので、啓発グッズの中にデマンドバスの時刻表を合わせて入れてPRを行いました。

(田中委員)

自治会の方からも確認をしたいのですが、デマンドバスということで、デマンド方式で、個別にといったそのようなことはされているのですか。

(事務局)

デマンドバスにつきましては、一部デマンドという方式を取っています。

(田中委員)

一部というのはどこですか。

(事務局)

逢井、山地、桜ヶ丘病院、地蔵堂、高田、下中島などが一部デマンドになっておりまして、通常そのバス停には行かないのですが、事前に中紀バスさんに連絡をすればそこまできていただけるというような運行形態になっています。

(田中委員)

それをみんなが知らないのではないのかなと思います。ですので、回覧版でもいつでも協力させてもらいます。私たち自身もあまり知らない状況でありますので。障がい者の方が増えているというのは、たとえばデイサービスなどの施設に通うとかそういったことではないのですか。そういった施設が今増えていますので。

(森下孝一委員)

あまり時刻表などは目にされる機会がないのですかね。

(事務局)

時刻表については新聞折り込みで行っていますので、それで行き渡っているという認識で、それのみしか行っておりません。別途、地域公共交通を使いましょうという広報は市の広報誌等で行っています。

(森下孝一委員)

他の地域であるのは、お年寄りの方でデマンドの方式になじまないと言いますか、なかなか自分のためにきてもらうというのはかなわんな、そんなやらしいことできないという方もおられたり、そもそも使い方を知らないという方もおられます。そういった方への広報と言いますか、取り組みもなにかないのかなと思います。

(事務局)

そうですね、28年度につきましては先ほど申し上げたこと以外のことはできていないです。

(後藤委員)

確かにこのAコースは年間で600名くらいですので、二人の方が毎日乗ったとしたらこの数字になります。本当に一人か二人が増えたら激増するということだと思います。

他県の町の事例で言いますと、今まで送り迎えしていただいていた方が、例えば何時のどの便に乗ったらどこに行って、帰りはこれに乗ってきたらいいよ、というのを渡してあげたら乗り出したという、そんな取り組みもあります。一人か二人増えれば数字は上がっていくという、そんな一部の取り組みの紹介です。

(成川議長)

知ってもらって利用してもらう人が増えれば運営もスムーズに行くようになりますので、市の広報も年1回といわずに分かりやすく大きな字で公共交通機関を利用しましょうといった呼びかけをやっていただければと思います。

話は色々とお出ましたが、議案に戻りまして、これはここで評価を決めたらよいわけですね。

(後藤委員)

ここで評価していただいたものを、国に出していくということになります。全く達成できていなかったらB評価なのですが、おおむね達成できたということであげていただければと思います。

(成川議長)

委員のみなさまいかがでしょうか。原案ではBコースが99.8%の達成率でB評価というのを付けているのですが、先ほどから伺っておりますとA評価でいいのではというご意見が多いのでどうでしょうか。原案をB評価からA評価に変更するというのはいかがでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

(全員挙手)

(成川議長)

ありがとうございます。それではこちらの議案につきましてはBコースの目標達成状況の評価はA評価に変更いたします。

その他この議案につきましてなにかご意見ご質問ございませんか。

(橋中委員)

B評価からA評価に変更してなにか影響といたしますか、なにかに反映されるとかそういったことはあるのかなど。

(後藤委員)

この国庫補助では自ら目標を立てて、事業・運行をしていただいて、目標を達成できたということは国庫補助をした甲斐がある、次年度以降も継続して出していく甲斐がある、ということになります。ただ、残念ながら年々活用する自治体が増えていまして、全体の枠は決まっていますので、活用する自治体さんが増えてくれば補助は少しずつ減っていく、その方向性ではあるんですけどもその中できちんと事業をしていただいたということになります。

(成川議長)

今後も目標を達成してA評価が続いていくようによろしく願いいたします。

他に特にご意見がないようですので、議案第3号「地域公共交通確保維持改善事業の事業評価については先ほど申し上げた評価を変更することでご異議ございませんか。

(異議なしの声)

続きまして、議案第4号と議案第5号については、一括議題とさせていただきます。それでは、議案第4号「平成29年度事業計画(案)の承認について」、議案第5号「平

成29年度予算（案）の承認について」を一括して、事務局より説明願います。

（事務局）

資料5頁をお開きください。議案第4号「平成29年度事業計画（案）」ですが、大きな方向性としましては、例年どおりに事業を実施していくということに変わりございません。今年度と同様に継続してバスの運行を行うとともに、先ほどの事業評価を踏まえた取り組みを行い、住民の公共交通の利便性等に対する満足度が向上するように努めていきたいと思っております。

先ほど説明しました地域公共交通確保維持改善事業の実施については、運行に関する実施主体は運行事業者となり、ルート・ダイヤ・運賃等の検討及び周知広報等については運行事業者と地域公共交通会議が協力して実施することになります。一枚おめくりください。続きまして議案第5号「平成29年度予算（案）」を説明いたします。

まず、歳入の部ですが、負担金として、有田市からの負担金は74,000円で前年度と同額です。諸収入の雑入として、広告料収入等で270,000円です。これは、27年度の決算額を参考に見込んでおります。従いまして、歳入につきましては合計344,000円となります。次に、歳出の部ですが、運営費として会議費が72,000円、事務費が2,000円でそれぞれ前年度と同額を見込み、運営費が合計74,000円となります。負担金270,000円は、先ほどの広告料収入等を負担金として運行事業者へお支払いするものです。従いまして、歳出合計は歳入と同額の344,000円となります。以上です。

（成川議長）

ただいま説明のありました、議案につきまして、何かご意見、ご質問はありませんか？

特に無いようでしたら、議案第4号及び議案第5号については、原案のとおり承認することにご異議はございませんでしょうか？

（異議なしの声）

（成川議長）

ありがとうございます。それでは、議案第4号「平成29年度事業計画（案）」、議案第5号「平成29年度予算（案）」は原案のとおり承認されました。

議案は以上になりますが、よりこの事業が発展しますようにその他ご意見等ございましたらお願いいたします。

なにより知っていただくといいのが大事なので、随時PRをよろしく申し上げます。それから事業者さんも大変ですが、より一層頑張ってください、やはり利用者が増えていただかなければなりませんので。いかがですか、事業者さんからなにかございますか。実際運行されていて。

（高垣委員代理）

そうですね。先ほどの議題にもありましたがAコースの方が若干ですが増えてきているというのはやはりやりがいがありますので、引き続き順調に伸ばしていければと思っておりますので、また頑張ります。

（成川議長）

来年もまたA評価だという数字がでるようにぜひ頑張ってくださいと思います。委員の皆さまにも有田市のデマンドバスを応援していただいて、よりよいものにしてほしいと思いますので、よろしくお願いいたします。

時間も経過して参りましたので、これで平成28年度第2回有田市地域公共交通会議を終了させていただきます。本会の進行にご協力いただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

5. 閉会